

1. 第23回フォーラムを開催 (2022. 3. 19)

第23回山のトイレフォーラムを札幌エルプラザ・環境研修室で39名の参加者を迎えて開催しました。テーマは「外国人から見た大雪山のトイレ事情」です。

講演は北星学園大学文学部英文学科の専任講師（現在准教授）であるロバート・トムソン氏で、演題は「ニュージーランドの山のトイレと比較して大雪山グランドトラバースのトイレを考える」でした。

ロバート氏は北海道に10年滞在。外国人に北海道のアウトドアルート情報を英語で紹介する非営利のウェブサイト「HokkaidoWilds.org」を開設しています。昨年8月に原始ヶ原から愛山溪温泉までの大雪山グランドトラバースを5人で縦走。トイレの無い所では携帯トイレを使用しました。携帯トイレは北海道独特の登山文化。しかし外国人にとっては非常識。いかに入国前に理解してもらおうかが大事。

大雪山は山小屋やトイレがネックかもしれない。それが改善されれば世界級の国立公園になる。ビックピクチャーが大事。10年後の大雪山トイレの理想を描き、目標に向かって改善を継続することが重要とお話されました。

講演内容はYouTubeで、プレゼン資料とフォーラム資料集も当会のホームページで見ることができます。



講演中のロバート・トムソン氏

2. 美瑛富士・固定式携帯トイレブースの点検パトロール実施(2022.6.26~10.2)

北海道の山岳団体から構成する「美瑛富士トイレ管理連絡会」による携帯トイレブースの点検パトロールがスタートしてから8年目。今年は8回実施することができました。

お陰様でブース設置前と比べ、汚物とティッシュの散乱は少なく、避難小屋周辺は大変綺麗になりました。トイレ道も判別できないほど薄くなり、嬉しいことに高山植物も再生してきました。連絡会による美瑛富士のティッシュと

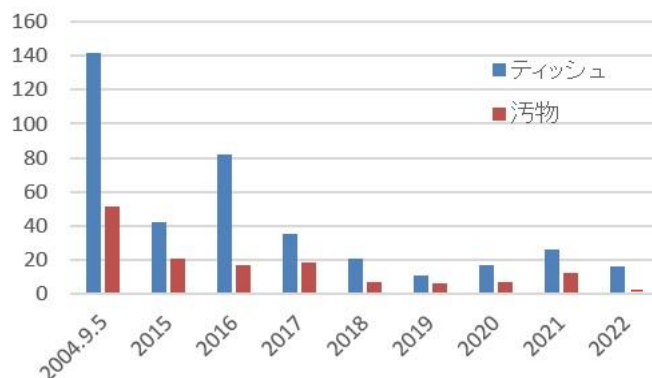
汚物の回収数の年度推移を図に示します。

〔点検パトロール実施状況〕

- ・6月26日：※ 山のトイレを考える会
- ・7月10日：大雪山国立公園パークボランティア連絡会
- ・7月18日：日本山岳会北海道支部
- ・7月24日：札幌山岳連盟
- ・8月 7日：北海道山岳連盟
- ・8月28日：道央地区勤労者山岳連盟（荒天途中断念）
- ・9月11日：道北地区勤労者山岳連盟
- ・9月25日：北海道山岳ガイド協会
- ・10月2日：※ 山のトイレを考える会

※：環境省と美瑛町のブース冬囲い（外し）にも協力

美瑛富士ティッシュ・汚物回収数年度推移



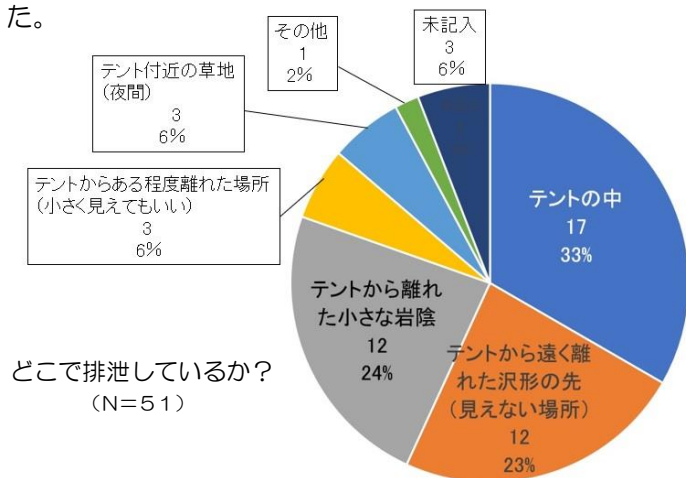
冬囲いされた携帯トイレブース (写真：環境省)

3. 裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置に向けたアンケート調査報告書を作成 (2022. 2)

2021年に北海道の山岳団体、自然保護団体、山岳事業者、ガイド、研究者等の18団体の賛同を得て「裏旭野営指定地携帯トイレ検討連絡会」（事務局は当会）を設立。その内の7団体が協働して現地での登山者アンケート調査を実施しました。（続く）

そのアンケート結果を集計・分析し、2月に報告書を作成、関係者に配布しました。

宿泊者の携帯トイレ持参率は94%と高率でした。皆さんどこで排泄しているかの問では「テントの中」が33%も占めました。他はいずれも周囲の高山植物帯の中でした。



また、宿泊者の9割強が携帯トイレブース（トイレ設置要望も含む）の設置を望んでおり、通過者の8割弱が「ブースがあれば立ち寄って利用する」との答えでした。

大雪山国立公園連絡協議会の総会（5月）で下部組織として「大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会」が設置されました。今後、当部会に裏旭野営地への携帯トイレブースの必要性について提言、設置に向け取組ます。

4. 赤岳コマクサ平と旭岳9合目に携帯トイレブース設置〔他団体の情報提供〕

8月、赤岳のコマクサ平にNPO法人かむいが木製の携帯トイレブースを設置しました。設置許可申請から始まり、製作、設置を当法人が実施しました。また今後の維持管理についても当法人が担うとのことです。



赤岳コマクサ平に設置された携帯トイレブース

連絡先	〒004-0061
	札幌市厚別区厚別西1条2丁目3-18
	山のトイレを考える会 事務局
	電子メール: hokkaido@yamatoilet.jp

9月には旭岳9合目のニセ金庫岩付近に環境省で木製の携帯トイレブースを試験設置しました。ここは強風の通り道で、いかに風に耐えることができるかが試されます。耐風構造で工夫がされていますが、さらに改良を加え、来年の夏期シーズンに備えるとのことでした。



旭岳9合目の携帯トイレブース

5. 日高山脈の国立公園化に向けたトイレの実態調査実施（2022.9）

日高山脈の国立公園化が2023年以降に延期されましたが、当会は日高山脈ファンクラブの協力も得て、現在、国定公園にある全ての山小屋とトイレについて実態を調査することにしました。

目的は「きれいな小屋とトイレで登山者を迎えたい」です。

8月の豪雨で林道が通行止めになった所は来年度に調査、今年度は10箇所について調査を実施しました。

〔調査実施箇所〕

- ① 剣山山小屋 ② 伏美小屋 ③ トッタベツヒュッテ
- ④ 十勝幌尻岳登山口トイレ ⑤ 札内川ヒュッテ
- ⑥ ペテカリ山荘 ⑦ 神威山荘 ⑧ 楽古山荘
- ⑨ アポイ岳 ⑩ 北戸鶯別岳（二岐沢）登山口

所有者、実際の維持管理者等を明確にして調査結果を公表、関係部門と協議したいと思っています。

日高山脈は大雪山国立公園と異なり、稜線には山小屋やトイレは一切ありません。携帯トイレの普及についても大雪山国立公園でのノウハウを活かし、検討していきたいと考えています。



札内川ヒュッテのトイレ



ペテカリ山荘のトイレ